

学校教育目標	○よく考える子ども ○最後までやりぬく子ども	○心ゆたかな子ども ○健康な子ども	目指す学校像 ・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校 学校スタッフにとって、仕事にやりがいを感じられる学校 目指す児童像 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師 保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教師
前年度までの本校の現状	成果 ・外国語科や外国語活動と中学校の英語科の連携授業や小中合同の防災訓練の実施など、小中連携・防災教育の充実を図ることができた。 ・tetoruでの保護者に向けた情報発信が定着した。	課題 ・教員の授業力・指導力の向上、同時に学習用タブレットやiPadを活用した授業の展開を図り、児童にとって分かりやすい授業を実施し、基礎的学力の向上を図ること。 ・特別支援教育の理解と充実を図ること。（特別支援教室や、ことばきこえの教室等、適切な支援につなげていくこと、教職員の理解を深め通常学級での支援の引き出しを増やすこと）	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の定着	○学力調査や診断テスト結果の分析 ○放課後の補習教室 ○教師の授業力向上	○全国学力・学習状況調査の結果 全国平均以上 ○江戸川区学力調査の結果 全国平均以上 ○東京へ「がく」別(算数科)の評価テスト正答率8割以上 ○毎週水曜日担任による補習の実施、週に1度のEDOスク実施 ○年間6回による校内研究授業 OJT研修（月1回、夏季） ○小中授業連携ワークショップ（月に1回1週間）	70%	80%	B	○全国学力・学習状況調査では全国平均を国語は6.8ポイント、算数は6ポイント下回った。しかし昨年度の国語-7.7ポイント、算数-6.4ポイントに比べ、全国平均との差は減少させることができた。学力向上委員会が2学期以降の学習の進め方について検討し2学期からの授業改善に向けて計画を立てた。 ○校内研究授業やOJT研修、小中授業連携ワークショップは計画通りに実施し、教員の授業改善につながっている。	B	○人数が多いため、学習が得意な子もいれば、苦手な子もいると思う。なかなか数字には結びつかないと思うが、まずは勉強が楽しい、と思わせてほしい。 ○基礎学力はとて大事なもので、定着を図ってほしい。 ○保育画での体を動かしたり、遊んだり、絵本を読んだり…といった経験が、学びの種となり小学校で芽がでて花開いていくと感じている。今後も連携をしていきたい。	B	○江戸川区学力調査は、全国平均と比べ、国語・算数ともにポイントが低かった。全国学力調査の意識調査では、算数の学習が楽しい、好きだと肯定的な回答する児童が多い。今後も、分かった・できた・楽しい授業を展開するとともに、苦手単元のアプローチを学校全体で共有し実施していく。 ○東京へ「がく」別(算数科)の評価テストも目標達成には至らなかった ○校内研究授業やOJT研修、小中授業連携ワークショップは、予定通り実施し、授業力向上の一助となっている。	B	○目標数値には届かなかったというところだが、算数の勉強が楽しいと感じている児童も多いため、今後も楽しく学べる授業をお願いしたい。 ○施設併設型小中学校の特色を活かし、今後も9年間の学びを意欲していきしてほしい。	○学力向上委員会が結果を分析し教員に共有、朝学習や放課後補習で取り組む内容についての提案を行い取り組んだが、結果には表れていない。次年度の天下一計算王の取組についても、実態に合わせ改善していく予定である。今後も他の学校の学力向上の取組を参考にしながら、児童の実態に合った取組を行っていく。
	○読書の更なる充実	○確実な読書の授業の遂行 ○図書館ボランティアや葛西図書館職員による読み語りやお話集の充実	○年間読書の本の冊数 ・低学年100冊以上 ・中学年90冊以上 ・高学年60冊以上 ○「読べる学習コンクール」への参加30人以上	85%	90%	B	○図書ボランティアの読み語りを1学期に4回実施した。また、中休みや休み時間に読み語りシアターを実施し、児童の読書の興味関心を高めることができた。	A	○冊数も多く子どもたちは恵まれた環境にあると思う。LASの読み語りも充実している。	A	○予定していた読み語りやシアター、集会を実施することができた。 ○図書委員会のサブライターの取組により読書に親しむ児童も増えた。	A	○図書室はいつも季節の飾りつけがされ、整理整頓されている。LASと中学生ボランティアの皆さんに感謝しかない。 ○OLASや中学生の図書ボランティアのおかげで、整理整頓の行き届いた環境で、本に触れることができた。今後も連携していく。	
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	○体育科授業の充実 ○「なわとびワークショップ」や外遊びの実施 ○体育的行事や取組 ○歯みがき指導の実施	○体力テストの結果 ・どの種目においても東京都の平均を上回る。 ○持久走記録会のタイムの向上 ○年度末の児童アンケートによる回答 ・体を動かすことが地味だと肯定的に回答する児童85%以上	75%	85%	B	○体力テストの結果はまだ出ておらず、体育関係の行事は2学期後半からの実施が多いので評価は難しい。 ○休み時間になると元気に校庭や屋内運動場で遊ぶ児童が多い。 ○歯みがき指導は来年度に向けて計画を立てている。フッ化物塗布は6年生で取り組んでいる。	B	○休み時間や放課後など、遊びを通して体を動かす場が多くあると思うが、小中併設校であるため難しいと感じている。	B	○体力テストの結果は、体力合計点は、1年男女、3年男女、5年男子は都の平均を上回っているが、それ以外は都・全国平均を下回っている状況である。特に「反復横跳び」「シャトルラン」「ソフトボール投げ」が得点が低い。 ○学校評価「学校は健康で体力のあるお子さんに育つよう取り組んでいると思いますか」の質問の肯定的回答は85%であった。持久走記録会の取組が印象的だったと考える。	A	○体力テストは都の平均を下回る学年もあるが、運動会での表現や競技はすばらしかった。特印、6年生の表現は感動した。 ○持久走記録会は、平日にも関わらず多くの保護者が参加したと聞いて嬉しい。素晴らしい取組なので今後も続けてほしい。	○体力テストの結果を体育的行事委員会と検討し、体育の主導動につながる準備運動において、ポイントの低い項目を向上させる活動を系統的に示し取り組ませっていく。
	○特別支援教育の推進	○巡回指導員主導の研修会の実施 ○コーディネーターや特別支援専門員を中心とした特別支援教育の組織化	○研修会の回数 ・年間3回実施 ○特別支援教室を運営する児童の数 ・年度内に5人 ○教職員へのアンケート ・特別支援教育が進んだと答える教職員が80%以上	75%	85%	B	○校内委員会で児童の様子を共有し、支援が必要な児童には特別支援教室への入級手続きを行い指導を開始することができた。また、特別支援教室を退級する児童は1学期末に2名であった。今後も通常学級での様子を見守っていく。	B	○専門機関と連携し、特別支援教育の様子をより充実したものにしてほしい。	B	○今年度の退級は3名で、目標には届かなかったが、児童に合った支援を提案することができた。 ○内部評価では、研修で特別支援教育について学び、理解が進んだという回答があった。	A	○退級人数は目標には届かなかったが、一人一人が個々の困難を克服した、改善できるよう支援できていることはとてもよい。 ○5歳児健診より、保護者や保育士等支援者の、支援を必要とする児童の把握がより進むとよい。	○次年度も月に1度の校内委員会の共有、必要に応じて臨時で委員会を開き、組織的に対応する。 ○OSVや巡回心理士との連携をより一層図る。
不登校・いじめ対応の充実	○子どもたちの健全育成に向けた取組	○全教職員による児童理解の充実 ○不登校児童分析シートの活用 ○いじめ対応の未然防止 ○組織的且つ確実ないじめへの対応	○不登校児童の人数 ・年度末における不登校児童数を0に近づける。 ○いじめ対応の未然防止 ・年度末には未解決を0にする ○児童への年度末アンケート ・学校が楽しいと肯定的に回答する児童が90%以上	75%	85%	B	○不登校児童は7名である。担任だけでなく、SSWや関係機関と連携して今後の見直しを立てていく。 ○いじめの未解決案件は現在のところは0であるが、今後も児童の様子を見て、早期発見を見守っていく。	B	○不登校・いじめの原因を分析し、未然防止を考える必要があると考える。	B	○不登校児童は29名である。児童・家庭に合った関わりを今後も構築していく。 ○いじめ認知件数は3件である。双方への聞き取り、指導・謝罪の場を設け保護者へ報告した。年度末に状況を把握し、解消を目指す。 ○学校評価「お子さんは毎日、いきいきと登校していると思いませんか」の質問に対し、肯定的な回答89%であった。今後も児童・保護者との信頼関係を築き、保護者との連携を図りながら、児童が充実した学校生活を過ごせるようにしていく。	B	○不登校には様々な要因があり、かつ複雑な事情が関係しており、解釈が難しいことを改めて知った。 ○夏季休業日中については規則正しい生活習慣を維持するため、ラジオ体操やフールを地域やPTAで実施について検討する。 ○年間30日以上不登校児童は29名である（1月末現在）。児童・家庭に合った関わりを今後も行っていく。7名がエンカレッジサポーターの活用により相談室への登校ができるようになり、教室へ行くことができるようになった児童もいる。次年度は、エンカレッジサポーターの人数や滞在時間を増やすことで、支援を増やしていきたい。	
	○自校（園）の取組の積極的な発信	○定期的なホームページの更新 ○年3回の土曜日の学校公開の実施	○保護者への学校評価アンケート ・「聞かれた学校」「学校は情報を発信している」という項目において、肯定的な回答が95%以上	75%	90%	B	○ホームページを定期的に更新している。今後も児童の様子を発信していく。 ○tetoru発信を常時化し、保護者へ確実に情報を発信する。	A	○tetoru配信が活発に行われており、情報発信されている。	A	○HP担当が、更新の回数やルールについて再確認し、掲示板への掲示も行うことで、更新回数が増え閲覧回数を伸ばすことができた。今後も情報を発信していく。 ○学校評価での情報発信や学校公開についての肯定的な回答は96%であった。	A	○tetoruとHPを活用し、十分な情報を発信できていると感じている。 ○今後も目的に合った情報伝達方法（ホームページやtetoru、用紙）を選択し、保護者や地域に学校の情報を届ける。 ○次年度も学校公開の内容を充実させていく（特別朝や保護者参加型の内容等）	
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校関係者評価の充実	○年3回の学校評議員会の実施	○学校関係者評価の結果 ・年度末に学校関係者評価の内容に関して、肯定的な回答が85%以上	80%	90%	B	○学校評議員会でいただいたご意見をもとに、今後の取組を改善したり、見直ししたりしている。	A	○活発に意見されており、改善に取り組んでいる。	A	○話し合いだけでなく、学校公開や展覧会、児童・保護者の様子を見ていただくことができた。	A	○学校評価の議論だけでなく、情報交換の場にもなっており、とても充実した学校評議員会となっている。	
	○小中連携教育の更なる推進	○小中連携した教員の授業改善 ○中学生から小学生に教える活動	○児童や教職員へのアンケート結果 ・小中連携を行うことで満足感を待たすという肯定的な回答が80%以上	85%	85%	B	○小中連携ワークショップとして1か月に1回、小中の教員が互いに授業を見学し合う機会を設ける。 ○7月15日に中学校の授業見学と部活動体験を実施。中学校生活の関心を高める。 ○夏季休業日中に小中連携ワークショップと中東地区で合同研修会を行った。10月には研修会に併せて「小中連携」研修会を行った。中学生が小学生に教える機会を設け小中連携を図ることができた。	A	○中学生がものすごく落ち置いていて小学生の苦手となっている。 ○中学校の見学・部活動体験、防災体験会など、小中併設の特色が生かされていると感じる。	B	○保護者の学校評価アンケートでは「小中連携に積極的に取り組んでいると思う」という質問への肯定的な回答が75%であった。教職員の内部評価では、部活動の連携が充実していた、もっと増やしたいという意見もあったため、保護者への周知が足りなかったと反省される。今後も連携の回数や時間帯について担当者同士で検討していく。	A	○施設併設型小中学校の特色を活かし、学力向上、部活動体験、防災体験の実施など、小中が連携して教育を行っていると感じている。 ○肯定的な回答が75%ということで周知が足りなかったという分析だったが、内容はどのようになっているか？ →「分らない」という選択肢もあり、その数値も高かったためそのように判断した。	○次年度に向けて、連携の回数や時間帯について担当者で検討し、充実した連携教育が図られるようにしていく。
教育の展開	○防災教育の充実	○防災体験会の実施	○参加児童の人数 ・50人以上の参加 ○実施後のアンケート結果 ・肯定的な回答が90%以上	85%	90%	B	○防災体験会では、参加児童43人が中学生とともに積極的に取り組む姿が見られた。地域防災の担い手として働けるよう、小学生の段階から体験を通して興味・関心をもたせていく。	A	○葛西小中の防災機能と備品について学び体験することは大事であり、防災体験会の開催に感謝している。 ○地域の関係者に災害があった時は連携していかなければならない。学校とも連携していかねば。	A	○更なる充実を図るため、地区副校長会での研究内容、生活指導部・避難訓練担当者とも共有し、避難訓練実施の改善を行った。事前事後指導の充実を図った。	B	○全児童・全生徒の防災への意識を高めていく。そのために、防災に関するイベントにはより多くの児童・生徒に参加してもらえよう。学校やPTAからもより多くの情報を発信していきたい。	○更なる防災教育の充実を図るため、地区副校長会での研究内容、生活指導部・避難訓練担当者とも共有し、次年度の教育計画に反映させた。次年度実施後の振り返りを行い改善を図る。